

## 「県政ガイドあいち 2021」表紙デザイン審査会講評

### 総評

伊藤 勇吉 審査員

本年も沢山の応募があり、楽しい審査となりました。愛知県の県政をPRするパンフレットの表紙デザインのため、何をどのように表現するのかが、表紙デザインのポイントとなります。グラフィック的なデザインから、漫画、アニメーション的な表現などいろいろな作品がありました。とても完成度の高い作品も多々あり、クオリティの高い作品が集まりました。

佐藤 直樹 審査員

多数の応募作品を目にして嬉しく思うと同時に、傾向が似通っている作品の多さに残念な気持ちもありました。「愛知らしさ」がテーマである以上、対象となるモチーフ（題材）が限定されることは避けられません。制作のコンセプトを「何をモチーフとするか」に留めず、「どのように表現するか」「どのような発想を用いるか」にまで発展させてください。そこに作者の個性があらわれます。その個性こそが作品の魅力であり、価値となります。

田中 篤至 審査員

初めて審査に参加しました。「堅苦しい」イメージのある県政ガイドですが、表紙は一般の人に手に取ってもらうための大切なデザインとなります。愛知の名物や観光名所が多く登場すると予想していましたが、似通うことなく、デザインにそれぞれのアプローチがあることに驚きました。今年らしく、コロナ禍をあしらった作品もありました。楽しく審査させていただきました。

### グランプリ作品講評

伊藤 勇吉 審査員

今回のグランプリの作品は、愛知県の代表的な名所やお祭りや産業を、パース的なイラストレーションで上手くまとめていて、表紙としての完成度が高いデザインとなっています。また、裏表紙とのコントラストも生きたデザインはグランプリにふさわしい作品と思われます。

佐藤 直樹 審査員

「愛知らしさ」が画面全面に展開された、いわゆる「わかりやすい」作品ですが、この作品がグランプリに推された理由は、「画力」「画面構成力」「色彩感覚」に優れた才能が発揮されているからです。同じモチーフを用いても、「描きかた」の方法や技術力によって、新たな魅力を付与することが可能です（「風景画」や「人物画」が繰り返し描かれ続ける理由もそこにあります）。直球が見事に決まった爽快な作品として高く評価します。

田中 篤至 審査員

昨年から一転、はっきりした色彩の作品が選ばれました。3次元的に配置された「名物たち」のデザインが色鮮やかで目を引きまします。全体的に明るい雰囲気でもとめられており、一般の県民が親しみやすく、元気を与えてもらえるような作品でした。